鹿児島県海域におけるマルアジ・ゴマサバの漁獲特性と漁況予測

資源管理部　主任研究員　森永法政

【目　的】

アジ・サバ・イワシ・ムロアジ類は，我が国の重要な魚種であり，本県においてもまき網，定置網，敷網，刺網，バッチ網，一本釣など様々な漁業種類で大量に漁獲され，その年変動は漁業経営に大きな影響を与えている。

このため，当センターではマアジ，サバ類，マイワシ，ウルメイワシ，カタクチイワシ，イワシ類シラス，ムロアジ類，オアカムロ，マルアジなど９魚種の漁海況予報（年４回発表）を行っている。

本研究では，水産庁の委託事業である『資源評価調査事業』により得られたデータを用い，マルアジ（アオアジ）とＴＡＣ対象魚の一部であるゴマサバの資源評価の精度の向上と本県海域における漁獲特性の把握及び漁況予測の精度向上を目的とした。

【材料及び方法】

水揚量については，1968 ～ 2005 年の鹿児島県主要４港（阿久根，枕崎，山川，内之浦）における中型まき網の魚種別データを用いた。

体長組成については，1993 年 1 月～ 2005 年 12 月に枕崎港及び阿久根港で実施した体長測定を用いた。

年齢別水揚量については，マルアジは 1993 年 1 月～ 2005 年 12 月に枕崎港及び阿久根港で実施した体長測定結果及び精密測定結果と阿久根港の魚種別銘柄別水揚量統計を用いて，年齢別水揚量（０歳・１歳・２歳以上）を算出した。ゴマサバは 1999 年 1 月～ 2005 年 12 月に枕崎港及び阿久根港で実施した体長測定結果及び精密測定結果と枕崎港の魚種別銘柄別水揚量統計を用いて，年齢別水揚量を算出した。

【結果及び考察】

マルアジは，水揚量が 2000 年以降に急増し，2000 ～ 2003 年まで好調に推移したが，2004 年以降は急減するなど，近年は水揚量が大きく増減している。

年齢別水揚量から北西薩海域におけるマルアジの漁獲パターンを整理すると，０歳魚の来遊量が多い年は９月以降にまとまった来遊がみられ，その成長群が翌年以降に１歳魚，２歳魚として好調に漁獲され，０歳魚の来遊量が少ない年は，その後の成長群の漁獲も低調に推移している。このように北西薩海域への０歳魚の来遊量が，その後１～２年間は漁況に大きな影響を与えると考えられた。

近年におけるマルアジ水揚量の増減は，０歳魚の来遊量が多い年（2000 ～ 2002 年）や少ない年(2003 ～ 2005 年)が続いたことが原因であると考えられた。

さば類の水揚量は，2002 年には急減したものの，2003 年以降は増加し，2005 年には中型まき網において過去最高の量を記録するなど好調に推移しているが，その多くはゴマサバとなっている。

年齢別月別水揚量から本県海域におけるゴマサバの漁獲パターンを整理すると，産卵親魚（２歳以上，主に３歳以上）は，１月～５月（主漁期２月～４月）が，１歳魚は５月～翌年１月（主漁期６～１２月）が，０歳魚は７月～翌年１月（主漁期８月～１２月）が主な漁期となっていた。

ゴマサバ１歳魚は，太平洋系群０歳魚資源豊度と翌年の枕崎港の１歳魚の水揚量の関係，他県及び阿久根港の水揚量の経過，体長組成から，太平洋系群が南下して薩南海域に５月頃に来遊し，その後北薩海域まで漁場が形成されると考えられた。１歳魚は本県海域への来遊量の年変動が大きく，来遊量が多い年はその成長群が１２月頃まで漁獲され，期間中，好調な漁況が継続した。

ゴマサバ０歳魚は，春季にサバ仔が定置網や棒受網に多く混獲されることから，春季にまとまって来遊するものと考えられた。本格的に漁獲加入する夏以降は，薩南海域を中心に北薩海域まで漁場が形成された。０歳魚は本県海域への来遊量の年変動が大きく，来遊量の多い年はその成長群が１２月頃まで漁獲され，期間中，好調な漁況が継続した。

近年におけるゴマサバの水揚量の増減は，2002 年は０歳魚・１歳魚ともに来遊量が少なく，2005 年は０歳魚・１歳魚ともに来遊量が多いことによるものである。

資源評価や漁況予測の精度向上のためには，それぞれの魚種において年齢毎に本県海域の漁獲特性の整理や広域回遊魚種においては回遊経路を解明する必要があるので，今後もさらにデータを積上げて，調査・検討を重ねていきたい。